

|               |                                |                            |
|---------------|--------------------------------|----------------------------|
| 平成20年<br>8月5日 | <b>農作物病害虫発生予報</b><br><b>8月</b> | 山口県病害虫防除所<br>山口県農林総合技術センター |
|---------------|--------------------------------|----------------------------|

～ 目 次 ～

予報の概要 . . . . . 1

予報

【主要病害虫】 . . . . . 2

【その他の病害虫】 . . . . . 10

参考(予報の見方、気象予報、8月のテレホンサービスの内容) . . . 11

### 予報の概要

| 農作物名 | 病害虫名       | 予想発生量 | 現 況 |     |
|------|------------|-------|-----|-----|
|      |            |       | 平年比 | 前年比 |
| イネ   | いもち病(穂いもち) | やや少   | -   | -   |
|      | 紋枯病        | やや少   | 少   | 少   |
|      | もみ枯細菌病     | やや多   | -   | -   |
|      | セジロウンカ     | やや少   | やや少 | 少   |
|      | トビイロウンカ    | やや少   | やや少 | 少   |
|      | コブノメイガ     | やや少   | やや少 | 少   |
|      | 斑点米カメムシ類   | やや多   | やや多 | 前年並 |
| カンキツ | かいよう病      | やや少   | やや少 | 少   |
|      | 黒点病        | やや少   | 少   | 少   |
|      | ミカンハダニ     | やや多   | やや多 | 多   |
|      | ミカンサビダニ    | 平年並   | 平年並 | 少   |
| ナシ   | 黒斑病        | やや少   | やや少 | 少   |
| 果樹全般 | カメムシ類      | 平年並   | 平年並 | 前年並 |

|     |                |
|-----|----------------|
| 作物  | 担当者            |
| 普通作 | 藤村(病害) 中川(虫害)  |
| 果樹  | 村本(病害) 殿河内(虫害) |
| 野菜  | 岡田(病害) 溝部(虫害)  |

|         |                |
|---------|----------------|
| お問い合わせ先 |                |
| TEL     | (083) 927-4006 |
| FAX     | (083) 927-4071 |

# 予報

## 【主要病害虫】

### イ ネ

#### 1 いもち病（穂いもち）

##### (1) 予報内容

| 予想発生量 | 防除時期                |
|-------|---------------------|
| やや少   | 粉剤・液剤：穂ばらみ後期と穂揃期の2回 |

##### (2) 予報の根拠

ア 7月下旬の巡回調査では、葉いもちの発生ほ場率は12.8%（平年36.5%）、発病株率は5.5%（平年15.9%）で平年に比べやや少なかった（-）。

イ 気象予報では8月の降水量は少なく、日照時間は多い（-）。

##### (3) 防除対策

###### < 耕種的防除 >

窒素肥料の多用は避ける。

#### 2 紋枯病

##### (1) 予報内容

| 予想発生量 | 現 況 |     | 防除時期                  |
|-------|-----|-----|-----------------------|
|       | 平年比 | 前年比 |                       |
| やや少   | 少   | 少   | 粉剤・液剤：穂ばらみ中期（出穂14日前頃） |

##### (2) 予報の根拠

ア 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は2.3%（平年17.9%）、発病株率は0.2%（平年2.8%）で平年に比べ少なかった（-）。

イ 気象予報では、8月の気温は高く、降水量は少ない（±）。

##### (3) 防除対策

###### < 耕種的防除 >

窒素肥料の多用は避ける。

###### < 防除判断 >

防除の目安は、防除適期の穂ばらみ中期（出穂14日前頃）に発病株率が15～20%以上である。

###### < 防除のポイント >

薬剤散布は、出穂期を過ぎると効果が劣るので、適期防除に努めるとともに株元まで十分に薬剤がかかるよう丁寧に行う。

#### 3 もみ枯細菌病

##### (1) 予報内容

| 予想発生量 | 防除時期                          |
|-------|-------------------------------|
| やや多   | 粉剤・液剤：出穂始め～出穂期<br>粒剤：出穂3～4週間前 |

(2) 予報の根拠

ア 5月下旬の共同育苗施設(29施設)における聞き取り調査では、育苗期の苗腐敗症の発生施設率は6.9%(平成1.4%)で平成より多かった(+)

苗腐敗症の発生施設率の平成値は、過去9年の平均値

イ 気象予報では、8月の気温は高く、降水量は少ない(±)。

(3) 防除対策

<耕種的防除>

窒素肥料の多用は避ける。

<防除判断>

出穂期を中心に前後3~4日が高温(特に最低気温が22~23以上)で降雨頻度が高い場合に多発生しやすい。

<防除のポイント>

スターナ剤の耐性菌の発生が県内全域で確認されているため、過去に防除効果が劣った場合は他剤に変更する。

4 セジロウンカ

(1) 予報内容

| 予想発生量 | 現況  |     | 防除時期   |
|-------|-----|-----|--|
|       | 平成比 | 前年比 |  |
| やや少   | やや少 | 少   | 8月10~13日頃(幼虫最盛期)<br>防除適期予測図参照<br>(飛来は6月21日、7月2、4日頃と考えられる。) |

(2) 予報の根拠

ア 予察灯における誘殺数(4か所、5月11日~7月29日)は、20頭(平成4,722頭)で平成に比べ少なかった(-)

イ 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は84.9%(平成75.9%)、10株当たり虫数は7.0頭(平成35.6頭)で平成に比べやや少なかった(-)

ウ 気象予報では、8月の気温は高く、降水量は少ない(+)

(3) 防除対策

<防除判断>

ア 穂ばらみ中期までに株当たり50頭以上(成幼虫)の発生があれば、薬剤防除を行う。

イ 出穂した後のほ場では、防除の必要性は低い。

<防除のポイント>

本年はこれまで目立った飛来はなく、発生もやや少ないため防除の必要性は低い。ほ場を確認し適切な防除に努める。

| 飛来日    | 8月 |   |    |    |    |    | 9月 |   |    |    |    |    |
|--------|----|---|----|----|----|----|----|---|----|----|----|----|
|        | 1  | 5 | 10 | 15 | 20 | 25 | 1  | 5 | 10 | 15 | 20 | 25 |
| セジロウンカ |    |   |    |    |    |    |    |   |    |    |    |    |
| 6月21日  | o  | @ | o  | o  | o  | o  | A  | A | A  | A  | A  | A  |
| 7月2日   | -  | - | -  | -  | -  | -  | o  | o | o  | o  | o  | o  |
| 7月4日   | -  | - | -  | -  | -  | -  | o  | o | o  | o  | o  | o  |

予測日 2008年 7月 31日  
 凡例 A: 成虫 - : 卵 o: 幼虫 @: 防除適期  
 主要な飛来 多飛来 並飛来 少飛来

図 セジロウンカの防除適期予測図

5 トビイロウンカ

(1) 予報内容

| 予想発生量 | 現 況 |     | 防除時期   |
|-------|-----|-----|--|
|       | 平年比 | 前年比 |  |
| やや少   | やや少 | 少   | 8月17日～23日頃(幼虫最盛期(第二世代))<br>8月31日～9月4日頃(幼虫最盛期(第三世代))<br>9月19日～27日頃(幼虫最盛期(第三世代))<br>防除適期予測図参照<br>(飛来は6月9日(少)頃に認められた。その後は認められなかったが、6月21日、7月2日、4日頃に下層ジェット気流が発達した時期があった。) |

(2) 予報の根拠

- ア 予察灯での誘殺数(4か所、5月11日～7月29日)は、2頭(平年29.8頭)で平年に比べやや少なかった(-)。
- イ 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は0%(平年11.3%)、10株当たり虫数は0頭(平年0.30頭)で平年に比べやや少なかった(-)。
- ウ 気象予報では、8月の気温は高く、降水量は少ない(+)

(3) 防除対策

< 防除判断 >

- ア 幼虫最盛期に当たる8月17日～23日、8月31日～9月4日、9月19～27日頃に発生密度を確認する。
- イ 防除の目安は、8月上旬までは成幼虫20頭/100株以上、8月中旬～9月上旬は成幼虫5頭/株以上である。
- ウ 本年はセジロウンカ短翅成虫及びヒメトビウンカの発生が多いため、ほ場を確認する際にはトビイロウンカと見誤らないようにする。
- エ 8月19日頃に長期予報を発表するので参照する。

< 防除のポイント >

- ア 本年はこれまで目立った飛来はなく巡回調査ほ場での発生も認められていないため防除の必要性は低い。ほ場を確認のうえ適切な防除に努める。
- イ 薬剤は株元にかかるように丁寧に散布する。

| 飛来日     | 8月 |   |    |    |    | 9月 |   |   |    |    |    |    |
|---------|----|---|----|----|----|----|---|---|----|----|----|----|
|         | 1  | 5 | 10 | 15 | 20 | 25 | 1 | 5 | 10 | 15 | 20 | 25 |
| トビイロウンカ |    |   |    |    |    |    |   |   |    |    |    |    |
| 6月9日    | @  | @ | @  | @  | o  | o  | o | o | o  | o  | o  | o  |
| 6月21日   | -  | - | -  | -  | o  | o  | o | o | o  | o  | o  | o  |
| 7月2日    | A  | A | A  | A  | A  | A  | A | A | A  | A  | A  | A  |
| 7月4日    | A  | A | A  | A  | A  | A  | A | A | A  | A  | A  | A  |

予測日 2008年 7月 31日  
 凡例 A: 成虫 - : 卵 o: 幼虫 @: 防除適期  
 主要な飛来 多飛来 並飛来 少飛来

図 トビイロウンカの防除適期予測図



<参考>

写真1 トビイロウンカ短翅成虫

写真2 トビイロウンカ幼虫

写真3 セジロウンカ短翅成虫

## 6 コブノメイガ

### (1) 予報内容

| 予想発生量 | 現況  |     | 防除時期  |
|-------|-----|-----|---|
|       | 平年比 | 前年比 |   |
| やや少   | やや少 | 少   | 粉剤・液剤: 8月6～10日頃(若令幼虫最盛期)<br>防除適期予測図参照<br>(飛来はほとんど認められなかったが、6月21日、7月2日、4日頃に下層ジェット気流が発達した時期があった。) |

### (2) 予報の根拠

ア 山口市のマレーズトラップでの誘殺数(7月1～30日)は5頭(平年81.9頭)で、平年に比べ少なかった(-)

イ 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は43.0%(平年63.5%)、被害葉率は0.1%(平年1.9%)で平年に比べやや少なかった(-)

ウ 気象予報では、8月の気温は高く、降水量は少ない(+)

### (3) 防除対策

#### <耕種的防除>

葉色の濃いイネに好んで飛来する傾向があるため、多肥を避ける。

< 防除判断 >

- ア 7月末～8月1半旬の払い出しで、成虫が5頭/m<sup>2</sup>以上いたほ場では8月6～10日(若令幼虫最盛期)頃に粉剤、液剤で薬剤散布を行う。
- イ 出穂期に上位3葉の被害葉率が約25%を越えると5%以上減収するとされる。
- ウ 出穂後のイネには産卵が少ないため、既に出穂したほ場ではコブノメイガ対象の防除は必要ない。

< 防除のポイント >

本年はこれまで目立った飛来はなく発生もやや少ないため防除の必要性は低く、ほ場を確認し適切な防除に努める。

JPP - NET病害虫発生予測システム

| 飛来日    | 8月  |   |    |    |    |    | 9月 |   |    |    |    |    |
|--------|-----|---|----|----|----|----|----|---|----|----|----|----|
|        | 1   | 5 | 10 | 15 | 20 | 25 | 1  | 5 | 10 | 15 | 20 | 25 |
| コブノメイガ |     |   |    |    |    |    |    |   |    |    |    |    |
| 6月21日  | @   | o | o  | o  | o  | o  | o  | o | o  | o  | o  | o  |
| 7月2日   | AA  | - | -  | @  | @  | o  | o  | o | o  | o  | o  | o  |
| 7月4日   | AAA | - | -  | -  | @  | @  | o  | o | o  | o  | o  | o  |

予測日 2008年 7月 31日  
 凡例 A: 成虫 - : 卵 o: 幼虫 + : 蛹 @: 防除適期  
 主要な飛来 多飛来 並飛来 少飛来

図 コブノメイガの防除適期予測図

7 斑点米カメムシ類

平成20年(2008年)7月17日付け平20病虫防第4号技術資料第3号を参照する。

(1) 予報内容

| 予想発生量 | 現況  |     | 防除時期  |
|-------|-----|-----|---|
|       | 平年比 | 前年比 |   |
| やや多   | やや多 | 前年並 | 出穂後発生を確認したら防除を実施する。穂揃期と穂揃期7日後の2回防除を基本とする(粉剤・液剤の場合)。 |

(2) 予報の根拠

- ア 7月下旬の雑草地等における20回すくい取り調査では、67.8頭(平年73.0頭)で平年並みであった(±)。
- イ 予察灯での誘殺数(4か所、6月1半旬～7月5半旬)は、アカスジカスミカメは868頭(平年358頭)、クモヘリカメムシは3頭(平年11頭)でアカスジカスミカメを中心に平年に比べやや多かった(+)
- ウ 気象予報では、8月の気温は高く、降水量は少ない(+)

(3) 防除対策

< 耕種的防除 >

カメムシ類のほ場への移動を避けるため、出穂2週間前までに畦畔等の草刈りを実施し、それ以降はイネ科雑草(エノコログサ、メヒシバ、ヒエ等)の穂が出る前に再度草刈りをするなどしてイネ科雑草の穂が出ないように管理する。

< 防除のポイント >

- ア 本年の水稲の生育は平年並みであるが、ほ場の出穂時期をよく確認し除草時期及び防除時期を逃さないようにする。

- イ 8月上旬までに出穂する水稻ではカメムシ類が集まりやすいため穂揃期と穂揃期後7日の2回防除を徹底する。また、薬剤を2回散布した後もほ場でカメムシの発生(特にクモヘリカメムシ等大型のカメムシ類)が見られる場合は、さらに7日後に追加防除を実施する。
- ウ 周囲よりも出穂の早いほ場、休耕地や雑草地周辺のほ場はカメムシ類による被害が多くなるので防除を徹底する。
- エ 本年は、アカスジカスミカメの発生が多いため、増殖に好適なイネ科雑草(エノコログサ、メヒシバ、ヒエ等)のある畦畔、雑地等の周辺ほ場では特に注意する。
- オ カメムシ類は広範囲に移動するので、広域で一斉防除すると効果が高い。
- カ 薬剤防除で粒剤を使用する場合の散布時期は出穂期～穂揃期なので、遅れないようにする。
- キ 水稻の出穂時期以降に畦畔等に出穂したイネ科雑草がある場合は畦畔等の草刈りは行わない。農薬散布の際は畦畔も含めて防除を実施する。

## カンキツ

### 1 かいよう病

#### (1) 予報内容

| 予想発生量 | 現 況 |     | 防除時期 |
|-------|-----|-----|------|
|       | 平年比 | 前年比 |      |
| やや少   | やや少 | 少   | 台風の前 |

#### (2) 予報の根拠

ア 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は14.3%(平年24.2%)、発病率は1.6%(平年3.4%)で平年に比べやや少なかった(-)。

イ 気象予報では8月の降水量は少ない(-)。

#### (3) 防除対策

##### <防除判断>

すでに発病しているほ場やあまなつ、いよかん等発病しやすい品種では、台風の前防除を実施する。

##### <防除のポイント>

ア 発病した枝葉は除去する。

イ 本病は、ミカンハモグリガ食害痕から容易に感染するため、防除を徹底する。とくに着果数の少ない園や幼木、隔年交互結実園の遊休樹等では注意する。

ウ 温州みかん等かいよう病に比較的強い品種でも多発することがある。とくに発病しやすい品種との混植園や近くに発生園がある場合は発生状況に注意する。

エ 防風樹や防風ネットを整備し、強風により枝葉や果実に傷が付くのを防ぐ。

オ コサイドDFやZボルドーなどの無機銅水和剤を散布する場合は、薬害を防ぐため炭酸カルシウム水和剤（クレフノン）200倍を加用する。なお、ICボルドー66Dを高温期に使用すると薬害を生じやすいので使用を避ける。

## 2 黒点病

### (1) 予報内容

| 予想発生量 | 現況  |     | 防除時期  |
|-------|-----|-----|---|
|       | 平年比 | 前年比 |   |
| やや少   | 少   | 少   | 前回の防除後、累積降水量が200～250mmに達したとき、または薬剤散布後1か月を経過したとき |

### (2) 予報の根拠

ア 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は90.4%（平年96.8%）、発病果率は34.4%（平年50.8%）で平年に比べ少なかった（-）。

イ 気象予報では8月の降水量は少ない（-）。

### (3) 防除対策

#### <防除判断>

予防散布が基本であるので、(1)予報内容の「防除時期」により防除を実施する。

#### <防除のポイント>

樹冠内の枯れ枝や放置された剪定枝は本病の伝染源となるので、園外に持ち出して処分する。

## 3 ミカンハダニ

### (1) 予報内容

| 予想発生量 | 現況  |     | 防除時期   |
|-------|-----|-----|--|
|       | 平年比 | 前年比 |  |
| やや多   | やや多 | 多   | 防除の目安を超えたとき<br>雌成虫の寄生葉率30～40%以上<br>または雌成虫1葉当たり0.5～1頭以上 |

### (2) 予報の根拠

7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率54.5%（平年46.6%）、寄生葉率7.6%（平年6.9%）で平年に比べやや多かった（+）。

### (3) 防除対策

#### <防除判断>

防除の目安は、雌成虫数の寄生葉率が30～40%以上、または雌成虫密度が1葉当たり0.5～1頭以上である。

## 4 ミカンサビダニ

### (1) 予報内容

| 予想発生量 | 現況  |     | 防除時期     |
|-------|-----|-----|----------|
|       | 平年比 | 前年比 |          |
| 平年並   | 平年並 | 少   | <防除判断>参照 |



(2) 予報の根拠

ア 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%( 平年2.7%)、被害果率0%( 平年0.2%)で平年並みであった(±)。

イ 気象予報では8月の気温は高く、降水量は少ない(+)

(3) 防除対策

<防除判断>

昨年発生した園で、梅雨明け後に防除していない園では薬剤散布を行う。

<防除のポイント>

発生園では効果の高い薬剤(サンマイト水和剤、オサダンフロアブル、ダニカット乳剤、コテツフロアブル等)を使用する。

ナ シ

1 黒斑病

(1) 予報内容

| 予想発生量 | 現 況 |     | 防除時期             |
|-------|-----|-----|------------------|
|       | 平年比 | 前年比 |                  |
| やや少   | やや少 | 少   | 8月に2～3回の薬剤防除を行う。 |

(2) 予報の根拠

ア 7月下旬の巡回調査では、発生ほ場率60.0%( 平年84.0%)、短果枝の発病葉率1.9%( 平年2.7%)、発病新梢率17.1%( 平年33.0%)で平年に比べやや少なかった(-)。

イ 気象予報では8月の降水量は少ない(-)。

(3) 防除対策

<防除判断>

降雨が続く場合や徒長枝葉の発病の多い園では追加防除を行う。

<防除のポイント>

ア 散布に当たっては、薬液が新梢の先端まで十分かかるように丁寧に散布する。

イ 落下した果実は拾い集め、園外に持ち出し処分する。

果樹全般(モモ、ナシ、カキ)

1 カメムシ類(チャバ`初カメシ、ツアカメシ、クサギ`カメシ)

(1) 予報内容

| 予想発生量 | 現 況 |     | 防除時期         |
|-------|-----|-----|--------------|
|       | 平年比 | 前年比 |              |
| 平年並   | 平年並 | 前年並 | 園地への飛来を確認した時 |

現況は予察灯調査による

(2) 予報の根拠

- ア 7月の予察灯誘殺数は、187頭( 平年610頭)で平年並みであった( ± )。
- イ 主要な餌植物であるスギ、ヒノキ毬果の量( 県内6地点における毬果着生指数)は平年並み～少なかった( ± ~ - )。

(3) 防除対策

< 耕種的防除 >

例年被害が発生する園では、ネット( 網目4mm以下)で園全体を覆い侵入を防ぐ。

< 防除判断 >

被害を受けることの多い園では、園内の発生状況や周辺の灯火を観察し、飛来がある場合は防除する。

< 防除のポイント >

カメムシ類に対する飛来時以外の薬剤散布は効果がないだけでなく、ハダニやカイガラムシの多発を招く場合があるため、スケジュール散布はしない。

【その他の病害虫】

| 作物名  | 病害虫名     | 予想発生量 | 現況  |     | 発生ほ場率 |       | 備考  |
|------|----------|-------|-----|-----|-------|-------|---|
|      |          |       | 平年比 | 前年比 | 本年(%) | 平年(%) |   |
| イネ   | イチモンジセセリ | やや多   | やや多 | 多   | 15.1  | 11.5  | 6月以降に移植した作型で、葉色の濃いほ場は被害を受けやすい。長期持続型箱施用剤を施用したほ場では防除の必要性は低い。8月上中旬に若齢幼虫が多ければ防除を実施する。 |
|      | ニカメイガ    | 平年並   | 平年並 | 前年並 | 0     | 0.6   | チョウ目害虫に効果のある長期持続型箱施用剤を利用している場合は追加防除は必要ない。   |
| ダイズ  | ハスモンヨトウ  | 平年並   | 平年並 | 前年並 | -     | -     | 防除の目安は、白変葉か所数が1アール当たり5か所以上である。  |
|      | 吸実性カメムシ類 | やや多   | やや多 | 前年並 | -     | -     |   |
| カンキツ | チャノドアザミ  | 平年並   | やや少 | 少   | 23.8  | 36.1  |   |

## 参考

### 1 予報の見方

#### (1) 病害虫発生量の基準（原則として過去10年間の発生量と比較）

##### ア 平年比

|     |                         |
|-----|-------------------------|
| 多   | 過去10年間で最も多かった年と同程度以上の発生 |
| 少   | で最も少なかった年と同程度以下の発生      |
| やや多 | で2～3番目に多かった年と同程度の発生     |
| やや少 | で2～3番目に少なかった年と同程度の発生    |
| 平年並 | で標準的にみられた発生（上記4項目を除くもの） |

（注：過去の発生量との比較を表わすもので、被害や防除の必要性とは異なる）

##### イ 前年比

|     |                           |
|-----|---------------------------|
| 多   | 平年比の5段階評価で区分し、前年の評価より多い発生 |
| 少   | 前年の評価より少ない発生              |
| 前年並 | 前年の評価と同等の発生（上記2項目を除くもの）   |

#### (2) 予報根拠における発生要因の評価基準

|   |                    |
|---|--------------------|
| + | 発生を助長する要因          |
| ± | 発生の助長及び抑制に影響の少ない要因 |
| - | 発生を抑制する要因          |

### 2 気象予報

#### (1) 概要

##### 1か月気象予報（8月1日福岡管区気象台発表）

| 予報   | 低い(%)<br>少ない | 平年並(%) | 高い(%)<br>多い |
|------|--------------|--------|-------------|
| 気温   | 20           | 30     | 50          |
| 降水量  | 40           | 30     | 30          |
| 日照時間 | 30           | 30     | 40          |

##### 週ごとの気温傾向

| 予報    | 低い(%) | 平年並(%) | 高い(%) |
|-------|-------|--------|-------|
| 1週目   | 10    | 30     | 60    |
| 2週目   | 20    | 40     | 40    |
| 3～4週目 | 20    | 30     | 50    |

### 3 8月のテレホンサービスの内容（予定）TEL(083)927-4649

| 時期 | 内容  |
|----|---|
| 上旬 | 8月の発生予報、イネ病害虫の発生状況と防除、ダイズ病害虫の防除、果樹カメムシ類の発生状況と防除 |
| 中旬 | イネ病害虫の防除、ダイズ病害虫の防除                              |
| 下旬 | イネ病害虫の防除、ダイズカメムシ類の防除、果樹カメムシの防除                  |